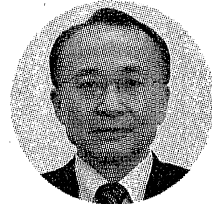


計目標 営業利益10億円

日本精鋳 品質差別化図る



福井社長

三酸化アンチモンの国内最大手である日本精鋳は14日、2012年度の連結営業利益10億円(09年度3億2100万円)を目標とする中期経営計画を発表した。アンチモン事業では、製品の差別化による競争力強化や新製品開発などを進める。資源を持つ中国の現地企業との合弁会社設立もめざす。子会社で展開する金属粉末事業は、電子部品向けの微粉を強化・拡大する。アンチモン事業の競

争力を強化するため、既存製品の低鉛化や微粒化などの品質差別化を図る。これにより顧客の多様なニーズに対応する。新しい製造技術の開発や、アンチモン以外の新商品開発も進める。事業基盤を拡充するために低品位原料からの製錬技術も開発する。

製造拠点の中瀬製錬所(兵庫県)では連続操業条件や原料装入方式を見直す。自動制御開発などの製造プロセスも革新することで、重油やLPGといった化石燃料消費を減らしコスト削減を図る。生産量も増やす。

原料のアンチモン地金の生産で世界シェア80%以上の中国との関係強化も重要な戦略。中国企業との合弁会社を現地に設立し、日本や東南アジア向けの汎用グレード品を生産。

これによりコスト競争力を持った自社製品の事業拡大を図る。金属粉末事業は連結子会社の日本アトマイズ加工(千葉県)で展開している。主力の電子部品向け微粉末の強化・拡大に経営資源を集中。顧客の全要求に応えるために、新しい生産体制や拠点を構築する考え。

コスト削減を進めると同時に、価格改定による適正な加工賃収入も確保する。これで事業収支を改善し、基盤事業の粉末冶金向け金属粉事業を維持し安定供給を続ける。顧客の課題を解決する提案型ビジネスも一段と深化させ、次の中核事業の創出につなげる。

前期 営業利益 3.2億円黒字転換

日本精鋳が14日に発表した2010年3月期の連結決算は営業利益が3億2100万円の黒字に転換した。アンチモン、金属粉末と

もに販売は当初予想を上回った。売上高も2%増加した。ただ繰り延べ税金資産の取り崩しの影響で最終損失を計上した。

11年3月期は売上高21%増、営業利益は71%増を予想した。純利益も4億円の黒字に転換する。景気回復に伴ってアンチモン、金属粉末ともに販売が堅調に推移する見通し。

供給を続ける。顧客の課題を解決する提案型ビジネスも一段と深化させ、次の中核事業の創出につなげる。